

令和6年9月20日

市政記者各位

福岡市美術館

トークイベント「プレゼンバトル 近現代美術編」を開催

福岡市美術館のコレクションは、ダリ、シャガール、ウォーホルなど近現代作品から、重要文化財《色絵吉野山図茶壺》をはじめとする古美術まで多岐にわたり、その総数は16,000点を越えます。その魅力をお伝えすべく、美術史家の山下裕二氏と当館総館長の中山喜一郎が、近現代美術コレクションに絞り、作品の魅力を語ります。

つきましては、広報にご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。

トークイベント

プレゼンバトル近現代美術編 山下裕二 VS 中山喜一郎

今回は、1万点を超える近現代美術作品の中から、お二人が逸品をセレクトします。その作品の魅力をバトル形式で披露。ドリームマッチ2024としてお二人が選抜監督となり、5点ずつ作品を紹介します。セレクトした作家・作品をどのタイミングでプレゼンするのか、監督の戦略も見どころです。

<登壇者のご紹介>



山下裕二（美術史家）

1958年、広島県呉市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。明治学院大学文学部芸術学科教授。雪舟をはじめとする室町水墨画の研究を起点として、縄文から現代まで、幅広く日本美術史のアップデートを試みている。近年監修した展覧会として、「コレクター・福富太郎の眼」、近著に『商業美術家の逆襲 もうひとつの日本美術史』（NHK出版新書）などがある。



中山喜一郎（福岡市美術館総館長）

専門分野は日本近世絵画。1981年より福岡市美術館学芸員。古代文明から現代作家、サブカルチャーまで様々な特別展を約30本企画。福岡市博物館学芸課長、美術館運営部長、副館長、館長などを経て2020年より現職。主な著書として『別冊太陽ユーモアあふれる禅のこころ 仙厓』（監修・共著、平凡社、2016年）、『仙厓の〇△□ 無法の禅画を楽しむ法』（弦書房、2003年）など。

日時	令和6年11月10日（日）14:00～15:30	開場	13:30～
会場	1階 ミュージアムホール		
定員	180人	料金	無料

イベント申込方法

申込方法	申込専用サイトからご応募ください。 https://fihb.f.msgs.jp/webapp/form/22521_fihb_494/index.do 1件につき2名まで申込可能です。 ※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。 ※当選者の発表は聴講券の発送をもってかえさせていただきます。
締切	10月23日（水）

【問い合わせ先】

経済観光文化局 美術館学芸課（担当：後藤、ラワンチャイクン）
TEL: 092-714-6051



トークイベント

近現代美術編
プレゼンバトル



日本選抜監督

世界選抜監督

山下裕二 (美術史家) VS 中山喜一郎 (総館長)

当館のコレクションは、ダリ、シャガール、ウォーホルなど近現代作品から、重要文化財《色絵吉野山図茶壺》をはじめとする古美術まで多岐にわたり、その総数は16,000点を超えます。今回は、その魅力をお伝えすべく、美術をこよなく愛する山下裕二氏 (美術史家) と中山喜一郎 (当館総館長) が、数々の所蔵品の中から近現代美術コレクションに絞り、作品の魅力を語ります。当館は初めてという方にも、足しげく通っておられるという方にも、新たな発見があること間違いなし! 会場でお二人の熱いバトルを体感ください。

要申込

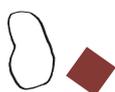
2024.11/10 (日) 14:00-15:30 (開場 13:30~)

会場：福岡市美術館 1階 ミュージアムホール 定員：180人 料金：無料

申込方法：申込専用サイトから応募ください。1件につき2名まで受付可。申込締切：10月23日(水)

※応募多数の場合は、抽選。 ※当選者の発表は聴講券の発送をもってかえさせていただきます。

申込
専用サイト



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM



日本選抜監督

プレゼンバトルとは？

今回は、1万点を超える近現代美術作品の中から、山下先生と中山総館長が逸品をセレクトし、その作品をバトル形式で披露。ドリームマッチ2024としてお二人が選抜監督となり、5点ずつ作品を紹介し、セレクトした作家・作品をどのタイミングでプレゼンするのか、監督の戦略も見どころ！



世界選抜監督

先鋒戦

気合とスピードで圧倒、瞬発力と勇気を持った作家作品が有利

次鋒戦

プレッシャーに負けない精神的安定感に優れた作家作品がふさわしい

中堅戦

自軍1、2の実力があり、精神的にもタフな資質を持つ作家作品が望ましい

副将戦

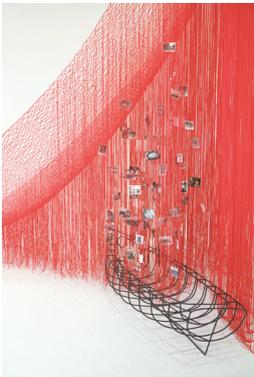
自軍の状況に応じ、試合に臨める応用力のある作家作品を充てることが重要

大将戦

個人戦でも優勝できる技術と精神力を兼ね備えた自軍最強の作家作品を選ぶべし

【福岡市美術館コレクションの名品たち】

※下記作品は、プレゼンバトルの選定作品とは限りません。



塩田千春《記憶をたどる船》2023年
© JASPAR, Tokyo, 2024 and Chiharu Shiota



サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》1950年
© Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR Tokyo, 2024 G3601



草間彌生《南瓜》1994年
© YAYOI KUSAMA 撮影:山中慎太郎 画像転載不可



マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》1945年
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024, Chagall® G3601



アンディ・ウォーホル《エルヴィス》1963年
© 2024 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3601



レオナル・フジタ(藤田嗣治)《仰臥裸婦》1945年
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3601

福岡市美術館 コレクション

当館のコレクションには、近現代美術と、江戸時代以前の古美術とが共存しています。作品が生まれた時間的・空間的幅も、紀元前5000年頃から紀元後2000年代、日本からアジア、ヨーロッパ、アメリカなど実に広く、作品の形状も絵画、彫刻、映像から屏風、陶磁器、染織と多岐にわたり、その総数は16,000点を超えました。この多様さ・多彩さこそが、当館のコレクションの最大の特徴です。



山下裕二 [美術史家]

1958年、広島県呉市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。明治学院大学文学部芸術学科教授。雪舟をはじめとする室町水墨画の研究を起点として、縄文から現代まで、幅広く日本美術史のアップデートを試みている。近年監修した展覧会として、「コレクター・福富太郎の眼」、近著に「商業美術家の逆襲 もうひとつの日本美術史」(NHK出版新書)などがある。



中山喜一郎 [福岡市美術館総館長]

専門分野は日本近世絵画。1981年から福岡市美術館学芸員。古代文明から現代作家、サブカルチャーまで様々な特別展を約30本企画。福岡市博物館学芸課長、美術館運営部長、副館長、館長などを経て2020年より現職。主な著書として『別冊太陽 ユーモアあふれる禅のこころ 仙厓』(監修・共著、平凡社、2016年)、『仙厓の○△□ 無法の禅画を楽しむ法』(弦書房、2003年)など。

